



TITLE:

京大広報 No. 348

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 348. 京大広報 1988, 348: 437-440

ISSUE DATE:

1988-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209331>

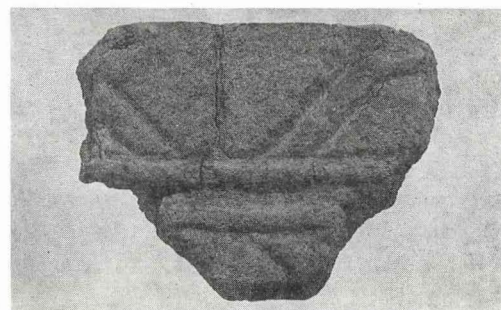
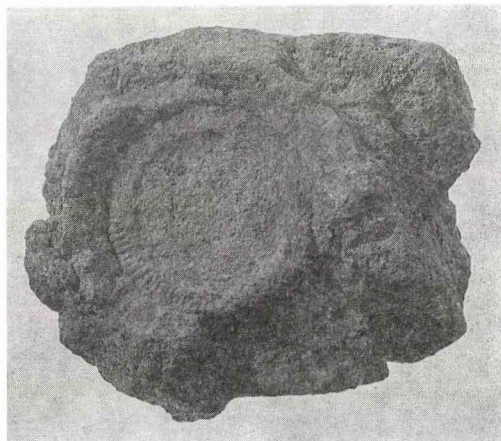
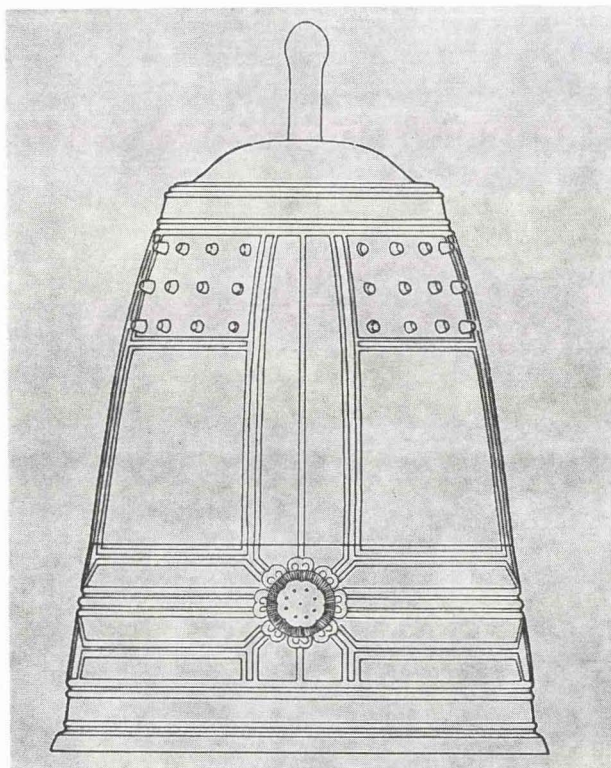
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 348

京都大学広報委員会



医学部構内出土の梵鐘鑄型の一部（右：約4/5）と 梵鐘復原図（左：1/5）

—関連記事本文438ページ—

目 次

昭和63年度入学者選抜学力試験 （第2次学力検査）の実施	438
昭和63年度医療技術短期大学部 入学試験の実施	438
＜紹介＞ 埋蔵文化財研究センター	438

日 誌	439
-----	-----

＜随想＞

京大の行儀の悪さ

名誉教授 岡田 節人…… 440

＜大学の動き＞

昭和63年度入学者選抜学力試験 (第2次学力検査)の実施

昭和63年度入学試験(第2次学力検査)は、2月29日(月)・3月1日(火)(A日程試験)及

び3月5日(土)・6日(日)(B日程試験)の両日程で実施された。

各学部(日程)別の受験状況は次表のとおりである。なお、合格者の発表は、既報のとおり3月19日(土)の午後、学部ごとに行われる予定である。

学 部	募 集 人 員	第1段階選抜合格者数	受 験 者 数	欠 席 者 数	欠 席 率
文 学 部	220人	699人	686人	13人	1.9%
A 日 程	20	100	92	8	8.0
B 日 程	200	599	594	5	0.8
教 育 学 部	60	211	207	4	1.9
A 日 程	20	82	78	4	4.9
B 日 程	40	129	129	0	0.0
法 学 部	400	974	957	17	1.7
経 済 学 部	240	1,123	1,101	22	2.0
A 日 程	50	283	277	6	2.1
B 日 程	190	840	824	16	1.9
理 学 部	306	2,063	2,017	46	2.2
医 学 部	120	531	508	23	4.3
薬 学 部	80	283	278	5	1.8
工 学 部	1,030	3,778	3,737	41	1.1
農 学 部	325	1,216	1,201	15	1.2
計	2,781	10,878	10,692	186	1.7

(注) 1. 受験者数・欠席者数は各学部とも最終の試験教科のものである。

2. 法学部と経済学部には「外国学校出身者のための選考試験」のものがそれぞれ含まれている。

昭和63年度医療技術短期大学部 入学試験の実施

医療技術短期大学部では、3月4日(金)と5日(土)の両日に昭和63年度の入学試験を実施した。受験状況は次表のとおりである。

なお、合格者の発表は3月16日(水)の午後に行われる予定である。

学 科	募集人員	志願者数	受験者数	欠席率
看 護 学 科	80人	271人	233人	14.0%
衛生技術学科	40	336	302	10.1
理学療法学科	20	165	137	17.0
作業療法学科	20	83	72	13.3
計	160	855	744	13.0

(医療技術短期大学部)

＜紹 介＞

埋蔵文化財研究センター

埋蔵文化財研究センターは、本学敷地内の埋蔵文化財発掘計画の立案、調査の指導及びその研究、保存と成果の報告書作成を行うことを目的として活動している。本学吉田キャンパスや、高槻市の農学部附属農場などはほぼ全域が周知の遺跡

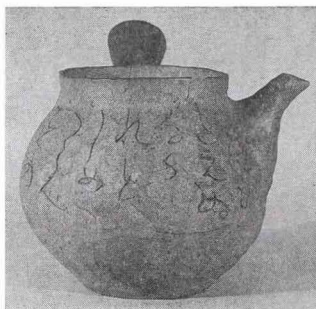
として登録されている。文化財保護法では、こうした遺跡内での建物その他の工事にさいしては事前の発掘調査を義務づけており、本学では学外組織の京都大学構内遺跡調査会に依頼してこれを実施している。

これらの調査にもとづく遺跡・遺物の研究は、今日では人文科学、自然科学諸分野全体にわたる共同研究として進められつつあり、それは本学の

ような組織内において最も効果的に機能を発揮する。センターの組織及び従来の調査で明らかになっている構内遺跡の概要については広報No319 (1986. 10. 15) で紹介したばかりであるので、ここでは近年の調査で発見された主要なものをいくつか紹介することにする。

昭和59年度の病院構内の調査では、幕末の歌人、大田垣蓮月の手になる「蓮月焼」を投棄した遺構が発見された。「蓮月焼」は自詠の歌を手づくねの陶器に釘彫りしたもので、その雅趣が当時の文人墨客らに流行した煎茶趣味に大いに受け入れられ、各種の煎茶器が作られたという。それらの事情は蓮月が富岡鉄斎に渡した自筆履歴などの史料にみられる。さらに富岡鉄斎が安政～文久年間 (1854～1864) に描いた「聖護院村略図」(鉄斎美術館蔵) には歌人高島式部や儒者の中島棕隠などの居宅とともに、黒谷通の北に蓮月の名がみえる。この位置は病院構内東南端付近にあたり、今回の出土品は、まさにこの「蓮月焼」にあたる(写真)。ただし繁忙のため作陶を手伝った垂水文子の名も記録にあり、「文子蓮月」とよばれるものもあるなど、出土品すべてが大田垣蓮月の手になるものではないことに留意して整理作業をすすめた。

医学部構内では13世紀前葉に梵鐘を鋳造した工房跡が発見された。梵鐘の大きさや外面を飾る文様を推定できる外型が多数破片で出土し、それから製品を復原すると、高さ約50cm、下端の直径は約35cmと小形で、また鉄製であることなどが明らかになった(表紙写真)。同様のものに建保5(1217)年の銘をもつ太秦広隆寺蔵の梵鐘があり、両者は年代、大きさ、装飾、鉄製であることなどが非常によく類似している。また鉄鐘で現存するものもこれら2例であることなどから、かな



病院構内出土の「蓮月焼」(約1/4)

り近縁の工人の作と考えられる。この調査の概要と梵鐘の検討については近日発行の年次報告書で詳しくふれている。

一昨年本部構内の調査で、中世の白川道が近世のそれとは位置を異にして発見された。白川道は文献史料の上からは、少なくとも平安時代以来近世に至るまで、京と近江を結ぶ重要なルートとして頻繁に使われたことが知られ、志賀ノ山越、山中越、白川馳道などの名称でよばれたものである。近世の白川道は以前から数か所で確認されており、轍の痕跡、修復の状況、道路周辺の景観などが明らかになっている。これを遡る時期の道路がこれとは別の位置に存在したことが判明し、白川道に関する新たな資料となった。上下2面の道路路面をもち、下面には轍の痕跡が明瞭に残り、上面はこぶし大の礫を敷きつめて改修を行ったことを知ることができた。

以上のように近年の発掘調査のうちからその成果の一部を紹介したが、これらの発掘調査はその大部分が建物建設工事にともなうものである。その実施にあたっては、施設部あるいは担当部局と十分協議した上で、建築計画に支障が及ばない方策をとるよう努力している。この点への十分なご理解を願うとともに、これら調査研究に多大のご協力をいただいている関係諸機関に改めてお礼申し上げます。(埋蔵文化財研究センター)

日 誌

(1988年2月1日～2月29日)

2月3日 体育指導センター管理運営委員会
 9日 保健衛生委員会
 " 環境保全委員会
 12日 同和問題委員会
 17日 国際交流委員会
 " 国際交流会館委員会
 " ドイツ連邦共和国 Berlin 日独センター
 Thilo Graff Brockdorff 事務総長来学,

総長及び関係教官と懇談
 22日 連合王国 Leicester 大学 Thomas Arthur Claxton 教授来学, 総長と懇談
 23日 評議会
 " 創立七十周年記念後援会助成金選考委員会
 27日 総長, 大学院生協議会と会見
 29日～3月1日 入学選抜学力試験(第2次学力検査) A日程試験

